

へ"議会だより つつかい

第101号

2022年5月



ふるさと納税の返礼品として人気を博している
カフェ ミルフィユの「濃厚チーズケーキ BETSUKAI」

特集

「ふるさと応援寄付金」が大躍進した理由 ... 2

令和4年度当初予算の概要 知恵を絞った予算に期待	3
好調なふるさと応援寄付金 今年度の目標額を大きく上回る ...	4
新型コロナワクチン接種 5歳以上も実施へ	5
新型コロナウイルス感染症経済対策の課題を調査	6
一般質問 (田村、松原、小椋、中村、外山、横田、木嶋、今西の8議員)	7
定例会・臨時会のまとめ	15
議会のうごき	16

シリーズ 町民に聞きました 返礼品にかける情熱16



北海道別海町議会

寄付額16倍以上!? 「ふるさと応援寄付金」が大躍進した理由^{わけ}



令和3年度の予算の中でも大きな存在感を示す「ふるさと応援寄付金」。返礼品として、別海町の特産品を数多くの人が楽しんでいきます。

寄付金はもちろん、本町のPRとしても大きな力となることが期待されています。

本町のふるさと応援寄付金は、制度が開始された平成20年度の41万円からスタートし、しばらくはほぼ横ばいで推移してきました。

転機となったのは平成28年度、特産品の乳製品や海産物を返礼品として扱い始めてから、徐々に寄付額が伸び始めました。

令和元年度に5000万円を超えた寄付金は、令和2年度には約1億5000万円となり、令和3年度は2月末時

点で23億6000万円と爆発的な伸びとなっています。なぜ急激に寄付が増えたのでしょうか。

返礼品に特産品を扱い始め、ふるさと納税サイトの利用を開始したこともありますが、令和3年度から「ふるさと応援寄付金の専門部署」を設置したことが大きな理由となります。

寄付金の受け入れ体制の強化を行い、インターネットで寄付を受ける「ふるさと納税サイト」の登録を増やしたことや「海産品や乳製品など別海町らしい返礼品の開発」が功を奏しています。

また、道民1503名を対象にした本町独自のマーケティング調査を行い、寄付した理由について分析しています。

■ふるさと応援寄付金の内訳

40%	寄付者が選んだ事業に充当 将来にわたって町が実施する事業の財源になります。寄付金は積み立てて、毎年の事業の財源として適宜充当されていきます。
30%	返礼品の調達費用 寄付者に送られる返礼品の調達費用として、寄付者が選んだ返礼品の事業者を支払われます。
12%	寄付を募集するための経費
8%	返礼品送付の運賃
6%	寄付後の事務手続きなどの経費
4%	町と特産品などのPR経費

その結果「魅力的な返礼品がある」に加えて、「その町に馴染みがある」「地域や事業者を応援したい」というものも大きな要因になっていることがわかりました。

この傾向から「地域の魅力を発信する」ことが非常に重要であると判断し、ふるさと納税のPRを強化する一方で、SNSなどのツールや、毎月実施される各種キャンペーンの活用を行っています。

近年の急激な寄付の増加により、返礼品対応をしている地元事業者には、生産体制や在庫の確保、新たな返礼品の開発など、多大な協力をして

いただいています。

いずれの事業者の皆様からも、ふるさと納税を活用して、「わが町がより良くなってほしい」という熱意が寄せられています。

まさに協働のまちづくりです。

こうした物心両面での協力体制が整ってきたことが、寄付金の増加に繋がっていると考えています。

今後も、やみくもに寄付額を伸ばすのではなく、官民協働で「別海町ブランド」を創り、地域のPRを行っていくと町長は方針を示しました。

令和4年度当初予算の概要 知恵を絞った予算に期待

予算決算審査特別委員会 委員長 大内 省吾 副委員長 田村 秀男

令和4年度各会計当初予算案について、3月9日から2日間、予算決算審査特別委員会で慎重に審議しました。

主な内容を報告します。

令和4年度の一般会計予算は、前年度比1・7%増の190億1600万円の予算となっています。

東部地区の小規模多機能型居宅介護施設などの整備補助金に1億6千万円、開設準備経費に2300万円を計上しています。

中学生以下の医療費無料化対策に5千万円、別海高等学校教育支援に5400万円が組まれています。

地域おこし協力隊推進事業に2600万円、ふるさと応援制度推進事業に24億円、地域医療体制維持確保に1億円など。



外構工事を経て10月に本オープン予定の「みなくる」

一次産業を支える環境保全緑化事業など自然環境維持対策のほか、中山間地域等支払交付金事業などに8億2500万円、秋サケ資源対策事業に250万円、酪農工場整備に1億1千万円など。

ふるさと納税の寄付金の有効活用など、知恵を絞って今後の健全な財政運営に取り込むことを期待して、本予算案に全会一致で賛成しました。

総務文教常任委員会の活動報告

担当所管 総務部・教育委員会など 委員長 木嶋 悦寛 副委員長 佐藤 初雄 委員 小林 敏之・大内 省吾・横田 保江

好調なふるさと応援寄付金 今年度の目標額を大きく上回る

昨年の第4回定例会以降に取り組んだ主な調査は次のとおりです。

- 新型コロナウイルス感染症対策
- 令和3年度実施事業の成果と今後の取り組み
- 協働のまちづくり推進事業
- 地域会館整備事業
- 町指定文化財保存整備事業
- 日本遺産整備活用事業
- ふるさと応援制度推進事業
- 自主防災組織育成事業
- 高機能指令センター更新事業
- 脱炭素社会の実現とSDGsの推進
- 生涯学習センター「みなく」の利用運営など
- 図書館の利活用促進
- 別海高等学校寄宿舎施設等助成事業です。

新型コロナウイルス感染症の状況

新型コロナウイルス感染症対策については、昨年末からのオミクロン株の台頭により、根室管内の感染者も急増しています。

本町においても、一月中旬以降、数字が大きく動く状況となっていました。

町立別海病院の新型コロナウイルス病床も、1月25日に再度設置されましたが、感染者の多くは無症状で自宅療養となっています。

委員会としては、町内の感染状況を確認し、公共施設の開閉状況や、3回目ワクチン接種の進捗状況、小児接種の予定などを確認しています。



ふるさと応援制度 推進事業

今年度、専門に取り組む部署を設置し、体制強化を図った結果、好調に推移しているふるさと応援寄付金です。

令和3年度は5億円を当初目標としていましたが、それを大きく上回る24億円程度となる予定です。

委員会調査の中では、

- ① 中間事業者の見直しおよび受付窓口の大幅な拡充
 - ② 返礼品登録事業者の協働体制および返礼品登録数の大幅な拡充
 - ③ 広告宣伝の強化
 - ④ 優れた民間事業者との連携
 - ⑤ 役場組織の強化
- などを目標額達成の要因と挙げています。

しかし、それ以上に制度自体の分析を徹底的に行い、優れた民間事業者との連携が欠かせなかったと考えられます。

今後の取り組みとして、返礼品登録事業者が経営を安定

させ、雇用創出や地域経済の活性化を第一義に据えるべきとのことから、以下の5つの運用方針が打ち出されました。

方針1 返礼品の安売り競争には参画しない。

方針2 寄付額を争う自治体間競争には参画しない。

方針3 総務省ルール順守。

方針4 生産者・加工業者と同じ目線で信頼関係を構築。

方針5 民間事業者と連携し、ふるさと納税の運用を「チーム」で取り組む。

独自のガイドラインを設定することで、加熱するふるさと応援寄付に一線を画する考え方に好感が持てます。



東急東横線での中吊り広告

福祉医療常任委員会の活動報告

担当所管 福祉部・別海病院など 委員長 今西 和雄 副委員長 外山 浩司 委員 戸田 憲悦・瀧川 榮子・宮越 正人

新型コロナウイルスワクチン接種 5歳以上も実施へ

ワクチン接種3回目は順調に進み、5月中に対象者18歳以上1万2619人の接種が終了予定と報告がありました。

また、5歳～11歳を対象とした接種は、1回目接種を3月15日から町立別海病院（小児科）で実施されます。対象者は900人です。

予防効果や安全性など情報の提供はしっかり行われます。

コロナワクチンは任意接種なので、情報の提供を細やかに、不安解消を最優先するように申し入れました。

新型コロナウイルス

感染者の現状

町立別海病院では道の要請を受け、7床を感染者受け入れ病床としています。

4月18日現在、新規感染者

12名。入院患者2名。93名が自宅療養を継続している状況となっています。

ファミリー・サポート・センター事業の現状

この事業は仕事と育児が両立できる環境の整備を目的としています。

育児サポートを受けたい方（利用会員）、サポートをする方（協力会員）双方が会員登録をします。

町は協力会員向けに講習会（必須）の開催と、事業の仲介を行います。

現在、協力会員34人、利用会員98人、利用者延べ279人です。

協力会員が不足している地域の解消が今後の課題です。講習会の開催方法に工夫を



ファミリー・サポート・センター事業も行っている民間施設（みるきっず）

凝らすなど、会員拡大を図っていきます。

町内の民間事業者が取り組んでいる事例もあり、安定した継続事業となるよう、今後の連携も視野に継続調査をしていきます。

別海町地域福祉計画策定へ

この計画は、町の総合計画と福祉関係の各種個別計画の中間に位置する計画で、福祉行政としては最高位に位置付

けられます。

この計画を基に、個別計画の各事業を推進していくと報告がありました。

今後の進捗状況を注視していきます。

令和3年度

所管調査を終えて

新型コロナウイルス関連の調査が主の1年でしたが、東部地区介護施設整備計画など新年度も継続調査を行います。

新型コロナウイルス対応において、

町立別海病院では、ワクチン接種、感染者受入れなど通常診療と併せて対応していたことができました。医師をはじめとする病院スタッフの皆様から感謝いたします。

また、民間を含めた福祉施設・幼児保育施設における予防対策など、職員・スタッフのきめ細やかな対応により、クラスターが発生することなく運営されていることにも感謝いたします。

産業建設常任委員会の活動報告

担当所管 産業振興部・建設水道部など 委員長 松壽 孝雄 副委員長 小椋 哲也 委員 中村 忠士・松原 政勝・田村 秀男

新型コロナウイルス感染症 経済対策の課題を調査

新型コロナウイルス感染症の影響に対する経済対策として、中小企業等経営持続化補助金・プレミアム付商品券事業・べっかい宿泊割事業の課題を調査しました。

中小企業等経営持続化補助金については、申請期間を2カ月延長（1月末に事業終了）しましたが、申請件数が24件で交付金額が263万円でした。

予算額750万円に対して35%の執行率でした。

このことについては、該当者する事業者が想定を下回り、積算段階の見積りが甘かったとの回答がありました。

プレミアム付商品券事業については、換金率（2月10日現在）が商品券で98・2%、飲食応援券で95・3%でした。

べっかい宿泊割事業について

では、換金率（1月末現在）で宿泊数878泊で57・6%、クーポン利用が3512枚で42・3%でした。

宿泊割の執行率を上げるための対策は、コロナの感染が拡大している状況なので、積極的なPRはしないと回答がありました。

別海町農業農村振興計画

別海町固有の優れた可能性を最大限に発揮して、町民はもとより国民の期待に応えていけるような農業、農村の確立を目指して「環境」「個性」「信頼」の3つの視点から描いた将来像を柱に別海町の農業、農村の振興を図っていく計画です。（令和7年度までの10年計画）

環境や社会情勢の変化を踏

まえ、中間年の見直しを行います。

本来、令和2年度に見直しするものですが、国や道の計画策定のタイミングにより令和3年度になりました。

新たな取り組みとして、カーボンニュートラルなどの環境負荷減、草地から畑地への転換、農業生産工程管理（GAP）の普及、食品ロスの削減、多様な人材や外国人の受け入れなどが計画に追加されています。

除雪状況

2月20日から22日にかけての暴風雪の除雪状況については、3日間で降雪量が59センチとなり、最大瞬間風速は18・5%を記録し、国道・道々、多くの道路で通行止めが発生しました。

20日は、午後から幹線道路を中心に除雪作業を実施、21日は早朝5時から全車出動し除雪作業を実施しましたが、

視界不良が続いたため各市街地を除いて午前中に除雪作業を中止しました。

22日も早朝から全車出動しましたが、これまでの降雪に加え強風の影響で作業が難航し、翌日以降は、民有車のロータリーを出動させ除雪作業を実施しました。

この間、町ホームページなどにおいて、除雪状況や不要不急な外出を控えるなどの呼びかけを行いました。

町道においては、大型車両など10台の雪にはまった車両の救助や、消防の救急要請3件に対して先導を行いました。



2月20日から連続する降雪により難航した除雪作業



詳細はこちらからご覧になれます

議員8人による一般質問

問 関係人口と納税で関係人口は 増えているのか



田村秀男議員

質問 関係人口を創出する
ふるさと納税の返礼品の需要
と供給のバランスは。

答弁 多数の事業者に返礼
品確保の協力をしていただき、
我が町がより良くなってほし
い、という熱意が寄せられた。
今後も、生産者、生産者組
織、加工事業者、経済団体と
の信頼関係の構築を強化し、
返礼品の確保に努めたい。

質問 寄付者に対するフォ
ロー体制の強化や本町のPR
方法を進化させることで、関
係人口や移住人口が増加する
と思うが。

回答の要約

北海道民1503名を対象
にアンケートを実施した。ま
た、約28万人の関係人口の創
出になり十分寄与している。

答弁 寄付金受け入れ環境
の拡充と本町のPRに集中し、
広告料5000万円の執行を
見込むほか、尾岱沼からの全
国生中継を含め、3度のテレ
ビ放映が実現するなど情報発
信を徹底した。

また、YouTubeの「べっかい
移住ちゃんねる」でも情報を
発信してプロモーション方法
の進化に努力している。

寄付者に対するフォロー体
制は、議員指摘のとおり、別
海町のファンとの「コミュニ
ケーションを通じ、さらなるリ
ピーターの確保やその先の交流
人口、移住人口の増加に繋がる
と判断している。

質問 関係人口や交流人口
の増加に向けて、900万円
近い予算を計上した町制施行
50周年記念式典・生涯学習セ
ンター「みなくる」落成式・
友好都市サミットの準備は。

答弁 記念式典と落成式は、
令和4年10月下旬に同時開催
を予定し、式典などの翌日に
友好都市サミットを予定して
いる。

式典などの内容は、過去の
記録写真や現在の別海町をド
ローンなどで撮影した映像に、
ナレーションやBGMを挿入
した50年を振り返る記念映像
の上映を企画している。

また、陸上自衛隊音楽隊に
よる記念コンサートを予定し
ている。

質問 移住人口の増加対策
では、多様なニーズに対応で
きる受け入れ体制の構築が必
要と思うが。

答弁 今後の流れから、10%
強存在している「地域居住」
の需要は、議員の提案通り、先
手を打つ価値があると考ええる。
その一方で、今年度完成し
た1棟2戸の「お試し移住住
宅」の利用動向を見る必要が
あり、民間の知恵や力の協力
を求めることも検討材料であ
る。

別海町の人口動態の推移

単位：人

年次 (総人口)	自然動態			社会動態		
	出生	死亡	増減	転入	転出	増減
令和元年 (15,005)	97	179	△ 82	669	752	△ 83
令和2年 (14,827)	108	156	△ 48	599	735	△ 136
令和3年 (14,552)	97	175	△ 78	523	716	△ 193
計	302	510	△ 208	1,791	2,203	△ 412
3年間平均	101	170	△ 69	597	734	△ 137

資料／住民基本台帳人口（各年12月末現在）

人口減少対策には「大胆な施策に果敢にトライする」勇気が必要！

質問を
終えて



議員8人による一般質問

質問 好調なふるさと納税の今後について



松原政勝議員

質問 ふるさと納税が好調で、令和3年の寄付金が24億円見込まれている。

返礼品を扱う地元水産加工業者からは、コロナ禍で厳しい状況の中、ふるさと納税が伸びることはありがたい、との声が上がっている。

今後、町民はこの好調なふるさと納税を、どのように活用するのか関心を持っている。

全国の事例を見ると、
●入学者が減少している農業高校にタブレット端末の整備
●ドローンを活用した土地調査の取り組み
●魅力ある学校づくりに対す

回答の要約

全国の皆様からいただいた寄付金は産業の振興、子育て世代への応援、老後の安心などへ充当する。

る支援

●減少している水産資源の回復策として「つくり育てる漁業」の推進事業

などに補助を出す事例などが見受けられる。

ふるさと納税をどのように活用するのか。

答弁

別海町ふるさと応援基金条例に基づいて、町が行う事業に活用していく。

また、返礼品を扱う水産加工業者にも施設整備などを行う補助を行っていく。

質問

別海町ふるさと寄附条例を改正し充当できる事業

を拡充したが、今後どのように活用していく予定なのか。

答弁

これからも継続すべき特色ある町の独自事業や長く町民の皆さんに還元される事業の実施のための財源とする。

基本的には本町が行う事業に寄付金を充当する。

質問

別海町として企業版ふるさと納税にどのように取り組んで行くのか。

答弁

企業版ふるさと納税の活用として、デジタル人材を地方に派遣する補助事業など、町として企業版ふるさと納税について調査研究に着手する予定である。

質問

今後、ふるさと納税をどこまで伸ばしていく考えなのか。

今後の体制強化をどのように考えているか。

答弁

別海町の事業者の雇用確保に繋げていくため、別海町ふるさと応援制度推進事業を要として取り組む必要があると考えている。

情報を管理し、見極めながら事業を進めていく。

今後とも、町民・議会・行政が一体となってこの制度を地域のために活かしていきたい。





詳細はこちらからご覧になれます

議員8人による一般質問

質問 生涯学習センター「みなくる」で街はどう変わる!?



小椋哲也議員

回答の要約

町民と行政、事業者それぞれが主体となり地域を創り上げる拠点として「みなくる」を育んでいきたい。

質問 いよいよプレオープンした「みなくる」。

隣接施設の「ぷらと」「マルチメディア館」と併せ、別海中心市街地の活性化や町民の利便性向上をこのように行なっていくか重要となる。

各施設との連携を含め「みなくる」の活用についてどのような検討をしているか。

答弁

関係部署で検討し、各施設の目指すべき姿を示した方針を昨年3月に作成している。

今後、わかりやすい形で町民に周知していく。

質問 三館の利用方法や窓口、情報発信などはどうなるか。

町民と行政、事業者それぞれが主体となり地域を創り上げる拠点として「みなくる」を育んでいきたい。

答弁

各施設の設備を適切に案内し、予約を行える仕組みを整備する。

インターネットでも一元化したサイトを開設する。

質問

「みなくる」付近は、商業交通の中心的エリアとなるが、商業活性化の施策は。

答弁

催事の際は人流が増えることが見込まれるため、南側駐車場をイベント広場として整備していく。

各種補助なども積極的に活用できるよう、今後、商工会や事業者と連携していく。

質問 「みなくる」の設置

管理条例では、営利販売を禁じているが。

答弁

イベントの内容を十分に精査し、公益性のある事業に対しては、利用料の減免も含め柔軟な対応が取れるよう規則を整備する。

質問 子育て支援、教育支援については。

「みなくる」のホワイエなどを常時オープンスペースとして開放し、子どもたちも気軽に立ち寄れる場を作る。

答弁

また、マルチメディア館を教育活動の拠点として青少年プラザにリニューアルする予定である。

オンラインを活用した塾の設置など検討しているが、施設の具体的な内容は、中高生

や地元事業者を交え令和4年度に検討していく。

質問 生涯学習やボランティア活動などは。

「みなくる」

既存施設で行なっていた活動は「みなくる」に移行することになる。

答弁

新たな設備なども増えるので、運用が開始されてから利用者のニーズの変化を柔軟に汲み取って事業化していく。

町民とともに学び、協議検討して繋がりを強くし、「みなくる」という施設を立派に育てていきたい。



「みなくる」を中心としたエリアがまちづくりの拠点となる

質問を
終えて

わたしも利用者として活用しつつ、いろいろ企画していきたいです。



議員8人による一般質問

質問 新型コロナウイルスワクチンを安心して接種できるような情報の周知を



中村忠士議員

質問 3回目接種の対象者が18歳以上となっているが、年齢引き下げの考えはあるか。

また、5歳から11歳までの接種に対する町の考えは。

答弁 ワクチンの基本的事項は国が定めているので、町では決められない。

ただ、18歳未満の追加接種が承認されたら速やかに接種可能な体制をとる。

5歳〜11歳の接種については、今年3月15日から小児科で個別接種を実施する。

質問 子どもの接種については賛否両論ある。

回答の要約

町ホームページや個別通知など情報の提供を行っている。

また、努力義務にもなっていない。

不安を抱いている方も多いので、その不安に寄り添った形で情報提供が必要だと思うが。

答弁 SNSやホームページなどを通じて周知している。

接種券を送る際に、不安を解消する資料などを同封しており、相談も受け付けている。

質問 町は事業所などに、抗原検査キットを無料配布する仕組みを作っているが実績は。

は。



一般的に使用される抗原検査キット（サンプル）

答弁 2500キット購入し、使用実績は818キット。

今後も効率的な活用を目指しつつ、配布を継続していく。

保育士、介護職員などの処遇改善は

質問 労働者全体の平均月額給与30万円に対し、介護職員、保育士は6万円程度低い。

改善を求める声を反映して、政府は保育士や介護・福祉職員などの待遇改善を図る措置を決めた。町の考えは。

答弁 町職員として勤務している保育士、幼稚園教諭、介護・福祉関係職員などについては、一般事務職員と同じ給料表を適用している。

格差はないことから、町職員については、今回の処遇改善の対象にはならないと考えている。民間に関しては、安定的な処遇改善による人材確保など、全般的な向上につながるものと考えている。

質問 今年の2月から3%（月9千円）程度給与を引き上げるための予算が国会で決まった。町の動きは。

答弁 私立幼稚園など4事業所が、2月からの賃金引き上げを予定している。

町は国の補助金を活用し補助する。

介護・障がい者福祉職員については、事業所が北海道に申請する。

町も手続きなどの手助けを行う。



詳細はこちらからご覧になれます

議員8人による一般質問

質問 英語指導助手の4人体制の見通しは



外山浩司議員

質問 本町は、令和2年度

から英語指導助手を2名から4名に増やし、児童生徒に充実した英語の教育体制を提供してきた。

これにより、生きた英語を学習すると共に、「コミュニケーション能力の向上が図られていると考える。

しかし、残念ながら今年度は、コロナ禍の影響で2名体制での授業を行っている。

今後の見通しについては。

答弁 感染症の影響により、

何度も来日が延期され、2名体制となっていました。

しかし、北海道から通知が

回答の要約

北海道から通知があり、実現の見通しがついた。

あり、1名が3月10日に来町、もう1名は4月以降に補充される予定である。

質問 GIGAスクール構

想の下、タブレットを活用した学習が行われている。

オンライン学習も準備が進められ、感染症の発生時などの臨時休校の際には、学習保障の機能としても期待できる。

タブレットの活用状況や、今後の見通しについては。

答弁 タブレットを家庭学習などに活用している。

今年度、タブレット学習用のドリルを予算に計上してお

り、家庭学習などでもさらに有効な活用が可能となる。

オンライン学習も、各学校でソフト面・ハード面で準備が進められている。

光回線の整備に伴い、家庭の受信環境が改善されることで、完全なオンライン授業の実施も可能となる。

質問 先生方のタブレット

を用いた授業方法などの研修状況は。

答弁 各校で推進リーダー

を中心に進めている。中学校区ごとに「いざという時のためのオンラインによる会議システム活用研修会」などを実施してきた。

また、教員向けの自主研修用動画を作成し、空き時間などに各々研修を進めている。

質問 昨年の中学生べつかい子ども未来会議定例会で、

「他の県、国と交流ができたか」「交流を通して文化を分

かり合いたい」という意見があった。

外国との交流については、各学校が個別に相手先を見つけて実践するのは、ハードルが高いように思う。

教育委員会が窓口となり、外国にある学校（日本人学校など）と交流ができないか。

答弁 異国の様々な文化を

学ぶことはとても大切であるが、外国との交流は、時差や事前交流などの課題もある。

今後、教育課程での位置付けが必要とされる場合、町内から日本人学校へ赴任している先生をつてに交流できるような検討していきたい。



2名の英語指導助手による授業の様子
(野付小学校)

質問を
終えて

タブレットの活用が、学習意欲の向上にさらにつながるように注視していきたい。



議員8人による一般質問

質問 将来に向け幼小中連携・一貫教育の協議と検討を



横田保江議員

質問 幼小中一貫教育について、私が令和元年12月定例会、今西議員が令和2年3月定例会で一般質問をした。

その後、どのような協議の場を設け、議論がなされ、提案や意見が出されたか。

答弁 令和2年度から、本町では全8学区で法に基づき学校運営協議会を設置している。

今年度は、全8地区で開かれている会議に出向き、一貫教育制度についての目的や目標、義務教育学校や幼小中一貫教育の説明を詳細に行った。その中で、地域と学校の在

回答の要約

学校運営協議会と連携し、地域で議論を深め、意見を取りまとめ、令和4年度中に町として方針をまとめる。

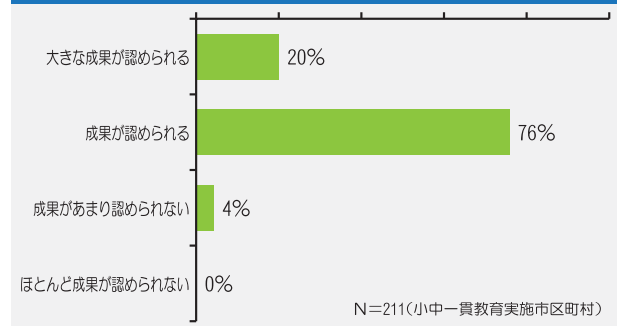
り方について議論がされている。

しかし、コロナ禍で深い議論が進められない地域もある。今後も学校運営協議会と連携し、地域での議論を深めていく。

質問 今回の協議の中での参加者・対象者というのは、幼小中の保護者だったか。

答弁 学校運営協議会委員のメンバーは、各学校のPTAであったり、校長、教頭、保護者、地域の方も含めて、学校運営協議会の中に入っている。

幼小中一貫教育のこれまでの取組の総合的な評価(成果)



平成26年3月1日幼小中一貫教育等についての実施調査(文部科学省実施・参照)

質問 その協議の中で学校の統合の話はあったか。

答弁 学校統合の話について協議をしたという記憶はない。

ただ、説明の中で町には適正配置計画があるという説明はしている可能性はある。

町側から学校統合についてを議題とした場面はなかった。

質問 平成26年文部科学省の『幼小中一貫教育等についての実態調査の結果』では、小

中一貫教育の導入により、大きな成果が認められる20%、成果が認められる76%、成果があまり認められない4%、ほとんど効果が認められない0%となっている。

子どもにとっても、いじめ・不登校の減少や学習意欲の向上など、教職員にとっても教科指導力・生徒指導力の向上などの効果が報告されている。今後には活かしていくべきと考えるが。

答弁 一貫教育に期待される教育効果には、中一ギャップの解消、異学年交流などがあげられる。

しかし、それは良い教育を実現するための手段であり、それ自体が目的ではない。

義務教育9年間を連続した教育課程として捉え、期待される教育効果と課題を精査し、地域の実情も踏まえ協議を進めたい。



詳細はこちらからご覧になれます

議員8人による一般質問

質問

別海町の産業連関表はいつ更新するのか



木嶋悦寛議員

質問

町では中小企業振興に活用する目的で、平成23年の別海町産業連関表を平成29年3月に作成した。

産業連関表は、町内の産業が他の産業とどのように関連しているかをまとめたもの。町内経済の強みと弱み、あるものとなないものを示してくれる、有効なデータである。具体的な活用事例は。

答弁

町行政においては、活用に向けた庁内での取り組みが進んでおらず、具体的な活用事例はない。

質問

なぜ進まないのか。

回答の要約

要請のあった中小企業同友会や、企業側との連携も含めてしっかりと準備をした中で、改定に向けて検討したい。

活用の意思はあるか。

答弁

作成に関し、本町の中小企業家同友会の強い要望を受けた経緯がある。

行政と同友会共に、活用の具体化が明確になっていない中で作成した。

その後も、活用の検討は進まず、町としては一部反省する面はあると考える。活用する気はある。

質問

平成30年第2回定例会における、西原議員の産業連関表はいつ更新するかという質問に対し、産業連関表の更新が必要だと明確に答弁している。

ている。

別海町の産業連関表はいつ更新するのか。

答弁

民間企業の活用状況調査を令和4年度に行い、需要も見極めながら具体的に検討を進めたい。

3力年の事業のローリングの中では、令和5年度に見直しを考えている。

職員の活用方法、専門家を招いての勉強会などについても、連関表を更新する前に議論する。

要請のあった中小企業同友会や企業側との連携も含め、しっかりと準備をした中で、改定に向けて検討したい。

質問

別海町中小企業振興行動指針は、企業振興の基本的方向性や施策を示すもので、現在のものは平成27年4月に改訂された。

データが古く、施策も第6次総合計画時のものであり更新が必要だ。

答弁

別海町総合計画との整合性や施策の達成状況なども見据えた中で、見直しを図っていく必要がある。

別海町企業マップの利用促進の考えは。

答弁

企業マップは、若年層の雇用促進および雇用の安定を目的としている。

マップの個々のページには、ホームページのURLなど貼り付けることが可能である。企業紹介や人材確保を目的に、動画やSNSの掲載意図を確認しながら対応しているものと認識している。



積極的な利活用が求められる別海町企業マップ

行政は施策の根拠となる科学的な統計やデータが大切である。



議員8人による一般質問

質問 生乳を一滴たりとも無駄にせず消費者へ



今西和雄議員

質問

昨年末、生乳5千トンの廃棄の危機に接し、生産者のみならず、乳業関係、自治体など、牛乳・乳製品の消費拡大キャンペーンが行われ、多くの皆さんのご理解・ご協力をいただいた。

町が取り組んだ牛乳・乳製品消費拡大事業の経過と成果は。

答弁

牛乳・乳製品を景品としたイベントを実施、町内飲食店などと連携し消費拡大事業を展開した。

町内飲食店にスクラッチカードを配布し、会計時に当たりが出たらアイスクリーム3個、外れカード3枚でアイスクリー

回答の要約

生産者団体や地元商工業者と連携し、消費拡大運動などに取り組んでいく。
また、根釧地域全体で牛乳余剰の対策に努める。

ム1個プレゼントをする内容。

イベントについて98%の店舗が満足と回答があり、今後のイベントにも協力すると回答があった。

消費拡大と飲食店の利用喚起を図る意味で一定の効果があった。

このような取り組みを幅広く行うことが、さらなる消費に繋がると認識している。

質問

酪農を基幹産業とする自治体として、消費拡大に向け新年度の支援策は。

答弁

牛乳・乳製品の消費拡大イベントをはじめ、SN

Sを活用して情報の発信、ふるさと納税返礼品などでも消費拡大を図っていく。

さらに乳和食の普及啓発を継続していくなど、牛乳・乳製品の消費を促す支援策に繋げていく。

牛乳余剰の現況は、一自治体でできる対策は限られており、生産地域全体で取り組むべきと考えている。

根釧酪農ビジョン推進会議で、地域一体となって連携していくことが確認された。

また、町内の酪農家自身が消費拡大に取り組んでいることもしっかりと受けとめている。

質問

需給状況の逼迫に



牛乳集荷を行うミルクローリー車



ミルクキング・パーラーでの搾乳作業

え、燃油・飼料価格の高騰などで、生産環境は厳しい状況になっている。

生乳生産日本一のわが町は、日本一牛乳・乳製品を消費者に届ける町である。

一滴たりとも無駄にすることなく消費者に届けるためにも、生産者団体とも連携し、消費拡大を継続的な運動として町政に位置付けるべきではないか。

答弁

もちろん、一滴たりとも無駄にすることなく、いろいろな発信方法も活用し、消費者のもとへ届けていく。今後の町政推進に当たって心構えを正し、襟を正して取り組んでいく。

定例会・臨時会のまとめ

令和4年第1回定例会会議結果報告

生涯学習センター設置及び 管理等に関する条例を付帯意見付で可決

第1回定例会の概要

3月2日に招集され、会期を
3月11日までの10日間に決定。

1日目 3月2日

町長から行政報告、令和4
年度行政執行方針、教育長か
ら令和4年度教育行政執行方
針が示されました。

副町長から提出案件の概要
説明と各所管部課長から先議
議案(令和3年度各会計補正予
算の内容説明が行われました。

町長から行政報告

● 2月20～22日の暴風雪によ
る被害報告

● 北京オリンピック出場の3
選手活躍報告、森重選手は
町民初の銅メダルを獲得

● 新型コロナウイルス状況とワク
チン接種の進捗状況

● 産業の動向

● 除雪の実施状況

● 光ファイバー整備、資材不

足で3カ月程度工期延長

議案などの内容説明

● 各会計補正予算8件を予算
決算審査特別委員会に付託

2日目 3月3日

議案などの内容説明

● 予算決算審査特別委員会付
託事件8件を全会一致で可
決

● 令和4年度各会計予算8件

● 条例の制定1件

● 条例の一部改正9件

● 根室町村等公平委員会規約
の変更

● 工事請負契約の締結2件

● 工事請負契約の一部変更

● 辺地に係る公共的施設の総
合整備計画の変更

● 町道路線の認定・廃止

● 根室町村等公平委員会委員
の選任

議案に関する主な質疑

● 生涯学習センター「みなく

る」の使用料の扱いについ

て(田村議員)(中村議員)

● 生涯学習センター「みなく
る」の名称の位置付けにつ
いて(今西議員)

● 別海町監査委員条例の一部
を改正する条例の制定につ
いて(松壽議員)(中村議員)

6日目 3月7日

6名の議員が一般質問。

7日目 3月8日

2名の議員が一般質問。

● 本会議を休会し、2常任委
員会を開催。

8日目 3月9日

● 本会議を休会し、予算決算
審査特別委員会を開催。

9日目 3月10日

● 本会議を休会し、予算決算
審査特別委員会を開催。

● 総務文教常任委員会を開催。

10日目 3月11日

● 常任委員会付託事件審査結
果報告および特別委員会付託
事件審査結果報告、各議案討
論・採決が行われすべての案
件が全会一致で可決。

● 工事請負契約の一部変更の
追加議案を可決。

● 特別委員会付託事件調査中
間報告

● 予算決算審査特別委員会の
設置

● ロシアによるウクライナへ
の軍事侵略に対する決議可
決

● 委員会閉会中の継続調査事
件を決定

第1回臨時議会の概要

1月24日に開催され、スポー
ツ選手応援事業補助金や住民
税非課税世帯臨時特別給付金
の増額などの、令和3年度一
般会計補正予算について可決。
その他専決処分報告(農道
舗装工事)。

シリーズ 町民に 聞きました

返礼品にかける情熱

ESS主催のふるさとグランプリ（2021年）菓子・果物部門で金賞を受賞した「濃厚チーズケーキ BETSUKAI」を返礼品として提供している、カフェ ミルフィユの千葉さんに、ふるさと納税についてお話を伺いました。



カフェ ミルフィユ 代表
千葉 隆司



フランスでの修行を経て、2015年にカフェ ミルフィユを開店。地元食材をふんだんに使った美味しいスイーツを提供している。

広報委員

ふるさと納税の返礼品を提供しはじめたきっかけはなんですか。

千葉さん

日々のカフェの営業で感じている別海町の食材の素晴らしさを、全国の方に知ってもらいたいと3年前に返礼品の提案をしたのがきっかけです。

別海町には洋菓子に向いた食材が揃っているので、別海牛乳はもちろん、地場の平飼いの有精卵やマスカルポーネチーズなど、地元のを前面に押し出したチーズケーキを開発しました。

広報委員

寄付者の方からの反応はどうですか。

千葉さん

幸い好評なレビューをいただいています。全国的にみると、観光に訪れる人が多いとは言えない道東エリアですが、特産品など食に関する興味を持っている人は決して少なくないと感じています。

広報委員

返礼品の提供で苦労していることはありますか。製造が追いつかず、発送まで数ヶ月お待ちさせることもある状況です。

千葉さん

よりたくさんの方に満足して味わっていただくために、生産体制を充実させていかなければと考えています。また、ふるさと納税の趣旨を考えると、返礼品に関わっている事業者は、別海町に対する社会的責任があると思います。

地場産品のPRや新たな雇用の創出など、地域への貢献を意識しながら取り組んでいます。

広報委員

今後の目標はありますか。

千葉さん

乳製品や海産物など一次産業の魅力を活用して、第二次産業の事業者が、消費者にPRできる商品開発などを、地域ぐるみで取り組めるといいなと思います。別海町としての地域の価値を大切に育みかけとして、今後も返礼品に関わっていければと考えています。

議会の傍聴の際はマスクを持参ください！

議会の会議は、誰でも傍聴することができますが、コロナウイルス感染症対策のため、発熱がなくマスクを持参される方に限っていますのでご了承ください。

令和4年6月定例会の予定

6月20日(月) 10時～

1日目 本会議(議案の説明・質疑など)

6月21日(火) 10時～

2日目 本会議(一般質問)

6月22日(水) 10時～

3日目 本会議(一般質問)
予算審査特別委員会

6月23日(木) 10時～

4日目 常任委員会

6月24日(金) 10時～

5日目 本会議(議案の討論・採決など)

※議事の内容は、変更することがありますので、議会ホームページをご確認されるか、議会事務局までお問い合わせください。

6月											
			1	2	3	4					
5	6	7	8	9	10	11					
12	13	14	15	16	17	18					
19	20	21	22	23	24	25					
26	27	28	29	30	31						

議会のうごき 12月定例会終了後から3月定例会まで

1 議長、副議長、各議員(委員)の動向について

期 日	内 容	備 考
12月16日	商工業活性化懇談会 (別海町)	正副議長 産業建設常任委員
12月22日	根室町村議会議長会臨時総会 (標津町)	正副議長
12月26日	第73回別海町成人式 (別海町)	議長
1月5日	別海消防団出初式 (別海町)	議長
	別海町新年交礼会 (別海町)	議長
1月7日	第74回別海町成人式 (別海町)	議長
1月14日	別海町スポーツ選手後援会第2回役員会 (別海町)	議長
2月7日	「北方領土の日」根室管内住民大会 (根室市)	議長
2月10日	別海中央小学校6年生総合的な学習に係る意見交換 (別海町)	正副議長 議会運営委員
2月28日	別海町生涯学習センター完成視察会 (別海町)	議員15名

「密閉空間」「密集場所」「密接場面」3つの密を避けましょう！